

化学物質削減

オーサカゴムの指定化学物質を一切含まないゴムシート

■ポイント

- 各種化学物質、重金属等を一切含まない多機能ゴム
- 耐油性、耐候性、耐熱性に優れ、非汚染性で食品衛生規格にも適合



多機能ゴムの開発で販路を広げた「KANKYOゴム」

「環境・安全・防災」を経営理念に掲げ、製品開発を進めているオーサカゴム。ゴムシートは建築・土木、各種機械、電機機器、自動車、造船、スポーツ・遊戯場その他あらゆる産業分野で、パッキングやガasket・シール材、緩衝材などの素材として、幅広く使われている。

オーサカゴムの「KANKYOゴム」は耐油性、耐候性、耐熱性に優れ、非汚染性で、食品衛生規格にも適合したゴムシート。各種有害化学物質規制(欧州RoHS指令及びREACH規則、JEITAグリーン調達ガイドライン、化審法、PRTR法)に対応している。

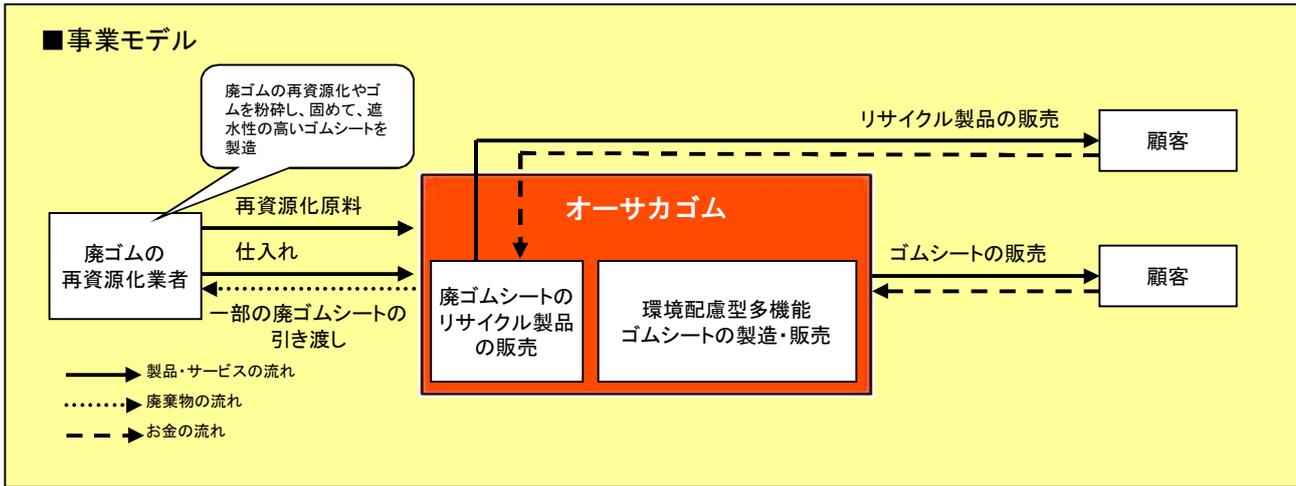
この多機能ゴムである「KANKYOゴム」の開発のきっかけは何か。欧州のRoHS指令の実施に先立ち、輸出対応の電子機器、各種機械メーカー等から部材として使用しているゴム製品に含まれる有害物質の有無に関する問い合わせが同社に数多く寄せられ、同社のゴムシートがそうした部品に広く用いられていることがわかった。そのような輸出規制に対する要求と背景、また同社の環境対応への経営方針より、同業他社のど

こよりも先き駆けて、有害物に関する各種物質の規制対応を進めた。それ以外にも、可塑剤として使用されるDOPなどの環境負荷物質をまったく使用しない環境対応ゴムシートを開発し、その結果、食品衛生規格にも適合。このシートは食品衛生の専用に販売されているゴムシートよりも安価であるため、販路の拡大にもつながった。

この「KANKYOゴム」の価格は従来品よりも原材料上割高ではあるものの、各種規制に対応していることから、価格について顧客からの理解は得られ、売上を伸ばしているようだ。また、昨年「KANKYOゴム」をホームセンターなど一般ユーザー向けにも販売している。「環境配慮という点が一般ユーザーに認められ、次第に従来の汎用品ゴムシートから切り替わりつつある」と、オーサカゴム社長の八尾氏は語る。



オーサカゴム 名張工場



ゴムシートの再利用—ゴムシート独自の課題とその対応

従来から一部汎用ゴムシートには、自動車用タイヤと同様、コスト面から、用済廃タイヤから再生されたゴム原料を、バージン材料と混ぜて利用している。一方、ゴムの再利用に関しては難しい側面がある。ゴムは、硫黄等による「加硫」によって三次元的な分子構造となり、ゴム特有の弾性が発揮される。加硫前であれば、自社の工場内で再利用できるが、加硫後のゴムを再生する場合、三次元架橋構造を切断して、再生する必要がある。このため、専用設備を有する再生ゴムメーカーに依頼することになるが、特殊且つ少量のゴムの再生は、技術的にも経済的にも困難な状況である。

安価な再生ゴムと異なり、特殊な再生ゴムはバージンゴムよりも、その再生処理上価格が高くなるが、同社では「廃棄よりもリサイクル」という視点から、そうしたゴムの再生化に取り組んでいて、再生ゴムを用いた製品開発を行い、環境

配慮型製品として販売している。

その他に、同社は、廃ゴムを業者に引き取ってもらい、一部リサイクル製品として、ゴムを粉砕し、固めてゴムマットとして製造されている。それを同社が仕入れ、商品として用途開発し、販売している。粉末ゴムを固めることで、透水性があり、水が表面にたまらないので、道路舗装や運動場、遊戯場に、またクッション性があることからゴルフ場の歩行路としても利用されている。

梱包用の材料への環境配慮対応を検討

「ゴムシート」を納入する際、ゴムの傷を防ぐため丈夫な包装紙を用いて納入する。やや過剰な包装でもあるが、製品の搬入上必要である。ただし、顧客から納入・使用後に包装紙や紙管をひきとって欲しいとの要望がある。これに関し、ゴム工業会においても重要な課題とし、紙管や包装形袋の合理化も含めて検討している。

- 所在地: 大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目9番5号
- 電話番号: 06-6771-0391(代)
- URL: <http://www.osaka-rubber.co.jp>
- 代表者: 代表取締役 八尾 巍
- 事業内容: 工業用ゴムシート、ゴムホース、消防用吸管、玄関マット他床材、ゴム及び熱可塑性エラストマー成形加工品などの製造
- その他: ISO9001:2000取得 等

Message

ユーザーの要望に対し早く対応し、今後もあらゆる製品について環境配慮した改良開発を進めていきます。

